



なないろ

「ならぬことはならぬものです」

(幸せをめざして PART 45)

所長 小野 真

福島県会津方面の親子旅行、利用者の皆さんはとても満足していました。会津と言えば私は、「白虎隊」そして、会津藩校『日新館』を思い浮かべます。会津藩は教育に熱心な藩としても有名で、水練場や天文台までも備えた日新館は全国有数の藩校でした。会津藩の男子は、10歳になると日新館に入学するきまりになっており、白虎隊の隊士達は、この日新館で学んだ16歳から17歳の少年達で編成されていました。

「ならぬことは、ならぬものです」この教えが現代に於いても、全国から注目されています。これは会津藩士たちが子供のころに教えられていた「什の掟」の最後の一文です。会津藩士の子供たちは、地区ごとに「什」というグループが定められており、6歳から9歳まではこの「什」に属しました。基本的に遊びも勉強も、この「什」のグループで一緒に行ったそうです。「什の掟」とは什の中のルールで、毎日最年長である什長がこれを唱和し、メンバーがきちんと守れているかどうかを確認したそうです。次の7つの教えが什の掟です。

- 一、年長者（としうえのひと）の言ふことに背いてはなりません
- 一、年長者にはお辞儀をしなければなりません
- 一、嘘言（うそ）を言ふことはなりません
- 一、卑怯な振舞をしてはなりません
- 一、弱い者をいぢめてはなりません
- 一、戸外で物を食べてはなりません
- 一、戸外で婦人（おんな）と言葉を交へてはなりません

これに「ならぬことはならぬものです」を付け加えたものが「什の掟」でした。この教えは、時代が変わっても、現在の虹の家の利用者の皆さんにも身に付けてもらいたい事と共通する内容が殆どです。事業所の中で「ありがたい感謝の気持ち」「間違ったことは素直に認め、謝る気持ち」「嘘をついたり、仲間の嫌がることをしたりしないこと」など、日々の生活を通して理解してもらうようにしています。また、「作業の準備、後片付けをしなければならないこと」や「勝手に人のものを盗ってはいけないこと」など事業所や社会の中で守らなければならないルールもあります。家庭においても就寝時間やお金の使い方などのきまりごとをつくって守っているとします。利用者の皆さんがこれから生きていく上で、やってはいけないことと、やらなければならないことがあります。どちらも避けて通ることはできないことを日々の体験を通して身に付けていかなければなりません。12月の全体朝礼で利用者の皆さんには次の3つのことを心がけるようお話しします。

- ・悪い誘惑に負けない強い心を持ちましょう。
- ・やらなくてはならないことはしっかりやりましょう。
- ・自分勝手な行動はやめ、虹の家や社会生活のルールを守りましょう。

もし、心が迷ったときに「ならぬことはならぬ」と自分に言い聞かせるようにということも話しました。利用者の皆さんと共に「ならぬことはならぬ」と胸を張って言えるよう、私たち職員も模範となる行動を心掛けて生活していかなければならないと自戒しています。

福島県会津方面「親子旅行」に行きました。

11月14日～15日

